must と have to について

～ MISATO さんの質問に答えて ～　　by　KAZU 先生

「must」と「have to」はどんなふうに使い分けるのか教えて下さい。

他にも，文の構成・細かいニュアンスの違い・否定文についてなど，スルドイ質問の連発でした。以下，掲示板でのレスをもとに，must と have to について徹底(てってい)解説してみました。

助動詞　must

must は**助動詞**。意味は**「～しなければならない」**。助動詞の後は，**動詞の原形**である。

You	must	help	your	mother.
あなたは	～しなければならない	手助けする	あなたの	母を。

（１）疑問文は，語順を入れかえて，

Must you help your mother?　（←ふつうはこんなこと言わないけど）

（２）否定文は，must の後に not を付けて，

You **must** not help your mother.

must not の意味は「**～してはならない**」。非常に**強い禁止**を表す。

（３）**must** は，**非常に強い命令・義務**を表す。だから，主語が you の場合，**命令文**とほぼ同じ意味になる。

You **must** help your mother.

Help your mother. ← **命令文**

手助けしろ

同様に，must not は，非常に**強い禁止**を表すから，**否定命令文**とほぼ同じ意味になる。

You **must not** swim here.

あなたは **～してはならない** 泳ぐ ここで。

Don't swim here. ← **否定命令文**

～するな 泳ぐ ここで。

ただし，両者の間にビミョーな違いが存在する。（くわしくは 5 ページで。）

一般動詞 have to

ふつう，**have to** はセットで**「～しなければならない」**と訳(やく)される。must とほぼ同じ意味だが，こっちの方が少し弱いイメージがある。（くわしくは 5 ページで。）

You	**have to**	help	your	mother.
あなたは	**～しなければならない**	手助けする	あなたの	母を。

なお，スラスラ流では have to をセット扱いしない。**have** は**一般動詞**，**to ～で不定詞**（名詞的用法）というのが本来の姿である。「**～することを**（義務として）**持っている**」がもとの意味である。

You	**have**	**to help**	your	mother.
あなたは	**持っている**	**手助けすることを**	あなたの	母を。

そのため，文中の（述語）動詞の扱いも異なる。

・一般的には，have to help をセットで述語動詞。

・スラスラ流では，文中の動詞は have。

（０）must は助動詞だから主語による使い分けはないが，have to の have は**一般動詞**なので，主語が三人称単数(話に加わっていない，男一人・女一人・もの一個)のときは，has to を用いる。

Yumi has to help her mother.

（１）疑問文は，他の一般動詞同様，文頭に Do(es)がきて，

Do you have to help your mother?

Does Yumi have to help her mother?

（２）否定文は，do(es)n't have to という形になる。

must not が強い禁止の意味になってしまうのに対して，do(es)n't have to は「**義務として持っていない**」→「**～しなくてもよい**」という意味になる。「義務から解放された」感じ(これもくわしくは　ページで)。

You don't have to help your mother.
あなたは　～しなくてもよい　手助けする　あなたの　母を。

must と have to の使い分け

ア．意味において

must も have to も「～しなければならない」と訳される。どちらも「強制的」だが，両者をハッキリと使い分けるケースがある。一言でいうと，must の強制は**内的**，have to は**外的**。

must ・・・・・ 自分で決めた義務

気持ち的に「～しなければならない」という義務感を抱いている。

別にそうしなければ罰(ばつ)せられるわけではないが，「やらないとヤバイ」という「あせり」，「後ろめたさ」あるとき。

have to ・・・・・ 自分以外（の人）が決めた義務

規則・決まりとして「～しなければならない」とき。「決まりだから，やらにゃいかん」という感じ。やらないと何らかのペナルティが課(か)せられる可能性がある。

「規則」，「決まり」以外に，「慣習(かんしゅう)(ならわし)」が含まれることもある。

…とはいえ，あまり厳密に使い分ける必要もない。前記の使い分けは「典(てん)型(けい)的な例」であって，はっきりと区別できないケースはいくらでもある。また，これらに「命令文」を加えると，

・命令文 ・・・・・ 強制の**理由が内的・外的**（「自分で決めたこと」，「自分以外が決めたこと」）**の区別がつかない**。加えて，「一時的な」義務を表すこともある。

イ．時制において

助動詞 **must には過去形がない**（ホントはあるんだけど，変化形がない。must の過去形は must とされている）。これでは，**過去の義務**のことを言いたいときに不便（ふべん）である。

また，未来については，助動詞 will か be going to を用いるが，どちらも「後に動詞の原形」というルールがある。will must のように，**助動詞を２つ並べるのはルール違反**だ。

そこで，ほぼ同じ意味の have to で代用し，

・過去 ・・・・・ had to ～ 「～しなければならなかった」

・未来 ・・・・・ will have to ～ 「～しなければならないだろう」

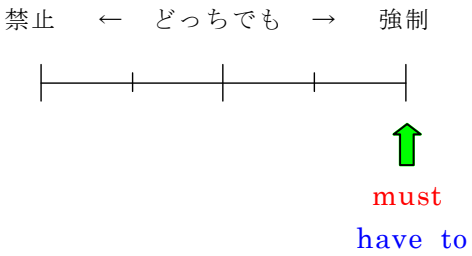
とする。

これは，「時制で使い分ける」というよりも，「過去・未来において，事実上 must は使えない」といった方が適切だろう。アで述べた意味の使い分けは，過去・未来においては不可能ということになる。

ウ．強制力において

文の種類による must と have to の強制力の強さを，ゲージに表してみよう。

○　肯定文



must，have to ともに「**～しなければならない**」という，強い強制力をもつ表現。

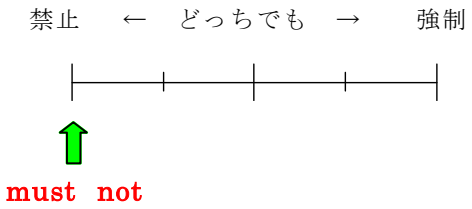
ただし，must は「発言者の気持ち」の問題なので，無茶（むちゃ）を要求したり，気持ちが変わらない限り強制が続いたりする。

そのため，must の方が have to よりも「強い印象」を与えがちだ。

○　否定文

must と have to の違いが最もハッキリ現れるのが，両者を否定文に書き換えたときである。

★ must not 「～してはならない」



You must not go now.
あなたは ～してはならない 行く 今。

must が持つ非常に強い「プラス側への強制力」を not で打ち消すと，逆に「**マイナス側への強制力**」に変わる。**「～しなければならない」という，行為(こうい)そのものを全面的に否定してしまう表現**なのだ。何とも，両極端(きょくたん)なヤツである。

なお，1ページの「must not」と「否定命令文」との違いは，must と命令文との違いとほぼ同じ。

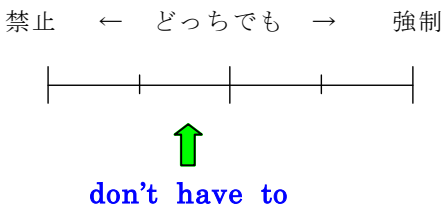
・ must not ・・・・・ **自分で決めた禁止事項**。気持ち的に「～してはならない」と感じを抱いている。

主語が I のときはよいが，You must not ～ というときは注意が必要。発言者の気持ちの問題なので，無茶を要求したり，気持ちが変わらないかぎり禁止が続いたりするケースもありうる。

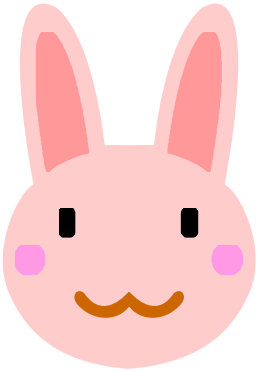
・ 否定命令文 ・・・・・ **禁止の理由が内的・外的（「自分で決めたこと」，「自分以外が決めたこと」）の区別がつかない**。加えて，

「一時的な」禁止を表すこともある。

★ don't have to ～　「～しなくてもよい」



You　don't have　to go　now.
あなたは　**持っていない**　**行くことを**　今。

must に not を付けて否定すると，must の持つ強い意味が正反対の方向へ打ち消されてしまうのに対して，**don't は have という動作だけを否定する**。そのため，「～することを(義務として)持っていない」ことになり，「**～しなくてもよい**」というかなり弱いニュアンスになる。

おしまい